

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成21年度病虫害発生予報第2号(5月)について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

### なし黒星病の防除対策を徹底しましょう!

近年、一部のDMI剤で、なし黒星病に対する効力低下が認められています。

DMI剤(スコア顆粒水和剤、アンピルフロアブル、インダーフロアブル)の使用回数を3~4回に制限するとともに、罹病した葉や果実は見つけ次第除去し、本病の被害軽減と耐性菌の発達遅延に努めるよう指導願います。



果叢葉での発病



幼果での発病

#### < 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は平年並でしょう。降水量は並で、日照時間は並でしょう。

週別の気温は、1週目は低く、2週目及び3~4週目ともに高いでしょう。

#### 要素別確率(%)

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

(福岡管区気象台 平成21年4月24日発表抜粋)

## 予報第2号

向こう1か月間の主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	前年比
水稲	縞葉枯病 (ヒメトビウカの保毒虫率)	-	やや多	やや多
かんきつ	そうか病 ミカンハダニ	並 やや多	並 やや多	並 やや多
なし	黒星病	並	並	並
ぶどう	黒とう病	並	並	並
かき	炭そ病 フジコナカイガラムシ	- 並	並 並	並 並
果樹共通	カメムシ類	-	-	やや多
茶	カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	並 多 多	並 多 多	やや多 並 並

### 作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の( )書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は発生  
の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

### 【普通作物 - 水稲】

#### 普通期水稲

#### 1 縞葉枯病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年（保毒虫率が増加し始めた2003～2008年の平均）よりやや多い、前年よりやや多い

##### (2) 予報の根拠

ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、8.4%（平年(2003～08年の平均)：5.1%、前年6.4%）であった(+)。

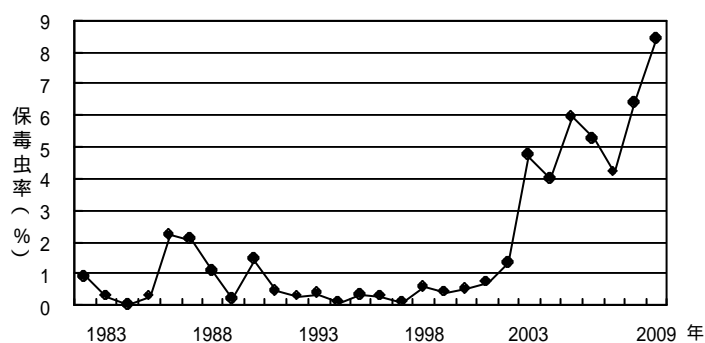


図 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移

表 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

地点番号	採集場所	保毒虫率(%)		
		2007年	2008年	2009年
1	宗像市河東	3.7	8.0	8.5
2	宗像市朝町	-	-	7.5
3	筑紫野市柚須原	-	-	8.5
4	久留米市太郎原	3.2	6.4	4.3
5	久留米市田主丸町益生田	1.6	4.8	-
6	うきは市浮羽町山北	-	-	11.7
7	朝倉市菱野	6.4	5.3	9.6
8	嘉麻市中益	-	-	5.3
9	添田町落合	-	-	8.5
10	筑後市馬間田	3.7	5.3	3.2
11	大川市北古賀	1.6	4.8	6.4
12	みやま市瀬高町堤	-	-	4.3
13	みやま市山川町北関	2.1	4.3	-
14	八女市上陽町上横山	2.4	10.6	-
15	黒木町木屋	5.3	3.2	5.3
16	岡垣町黒山	4.8	6.0	5.3
17	行橋市辻垣	-	-	10.6
18	豊前市岩屋	-	-	13.8
19	みやこ町勝山上久保	10.6	12.2	21.3
	平均	4.1	6.4	8.4
	平年 (2003～08年の平均)			5.1
	本所管内 (地点番号1～9)	3.7	6.1	8.0
	筑後支所管内 (同10～15)	3.0	5.6	4.8
	行橋支所管内 (同16～19)	7.7	9.1	12.8

1) 「-」: 検定なし                      2) 検定方法: エライザ

3) 1地点当たり検定虫数: 2007年、2008年 184～188頭、 2009年 94頭

(3) 防除上の注意

ア 水稲収穫後の刈株やイネ科雑草は、ヒメトビウンカの越冬場所であるので、早急に耕起し密度低下を図る。

イ 越冬世代成虫は、小麦や越冬地付近のエノコログサ、イタリアンライグラス等のイネ科植物に移動し増殖するので、雑草防除を行い発生密度の低下を図る。

ウ 水稲育苗ほ場への本種の飛び込みを防止するため、イネ科雑草が繁茂した場所や麦類作付ほ場付近での育苗を避ける。

エ 第1世代成虫は、5月中旬頃から羽化し始め、麦の収穫とともに麦ほ場から水稲へ移動するので、5月下旬～6月上旬移植の品種では移植直後から成虫の発生に注意し、発生が多い場合は防除を行う。なお、今後の発生状況については予察情報を提供するので参考にする。

【果樹】

1 かんきつそうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0.1% (平年 0.2%、前年 0.1%)

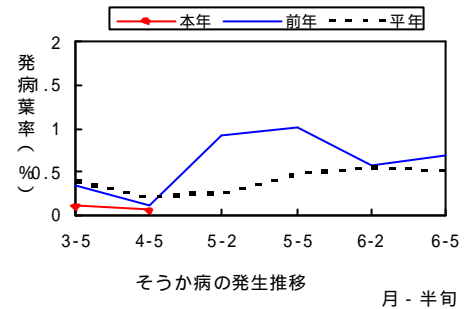
発生ほ場率 16.7% (平年 15.8%、前年 7.1%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温、降水量ともに平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は見つけ次第除去する。



2 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった(+)

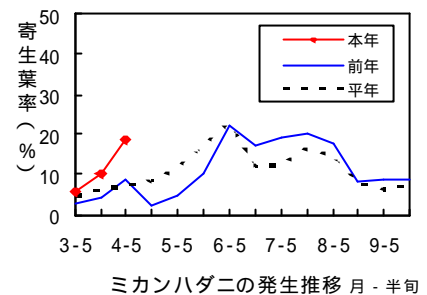
寄生葉率 18.8% (平年 7.5%、前年 8.5%)

発生ほ場率 91.7% (平年 47.9%、前年 66.7%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温、降水量ともに平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

この時期は果実への被害がないので、6月の防除で対応する。



3 なし黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0.1% (平年 0.1%、前年 0.0%)

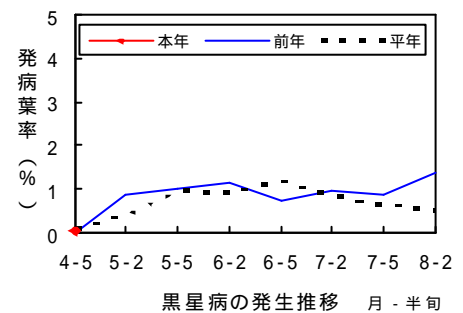
発生ほ場率 18.2% (平年 10.9%、前年 6.7%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温、降水量ともに平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉や罹病果実は見つけ次第除去する。

イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。



4 ぶどう黒とう病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

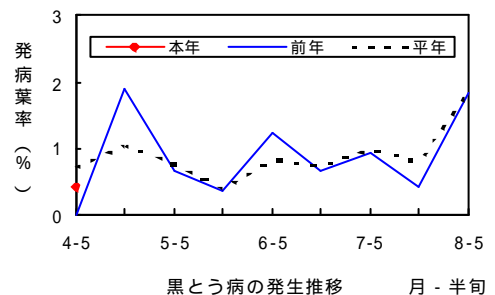
(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0.4% (平年 0.7%、前年 0%)

発生ほ場率 8.3% (平年 10.7%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温、降水量ともに平年並とされている(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 罹病葉や罹病新梢は伝染源となるので見つけ次第除去、焼却する。
- イ 多発園では、ジチアノン水和剤や有機銅水和剤を必ず散布する。

5 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 前年10月2半旬調査の結果、発生量は平年並だった(±)。

発病果率 2.1%(平年 1.9%)

発生ほ場率 71.4%(平年 60.9%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温、降水量ともに平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 罹病枝は伝染源となるので見つけ次第除去する。

イ 多発園では、防除効果の高いマンゼブ水和剤やマンネブ水和剤を必ず散布する。

6 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並だった(±)。

寄生枝率 2.3%(平年 3.3%、前年 3.6%)

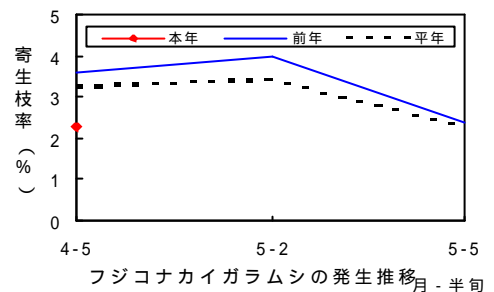
発生ほ場率 35.7%(平年 56.5%、前年 73.3%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温、降水量ともに平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 多発園では、天敵の影響が比較的少ない薬剤で防除する。

イ 開花前の防除はミツバチに影響の少ない薬剤を散布する。



7 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多、前々年並

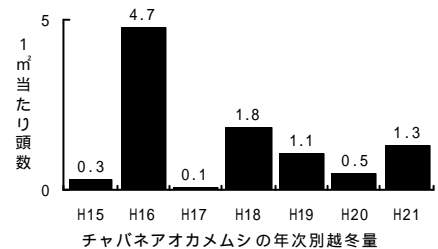
(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は、平均1.3頭(前年 0.5頭、前々年 1.1頭)で前年よりやや多く、前々年並であった。

イ 向こう1か月の気象予報は、気温、降水量ともに平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

春先の気温が高かったので活動が活発となっている。ビワ、モモ、ウメ、スモモ等の果樹園への飛来の可能性があるため、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。



【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	やや多	やや多	並	・ミカンハモグリガやハマキムシ類との同時防除を行う。 ・発生初期に防除する。
なし アブラムシ類	並	並	並	・発生初期に防除する。

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

寄生葉率 1.7%(平年 2.9%、前年 2.8%)

50葉当たり虫数6.2頭(平年 8.8頭、前年 4.6頭)

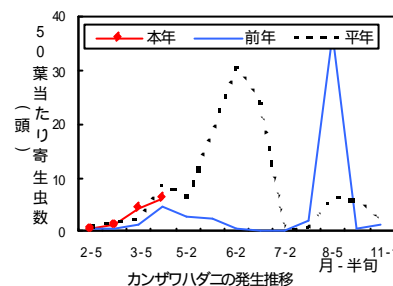
発生ほ場率 33.3%(前年 52.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア 一番茶の摘採時期をむかえている茶園は、摘採後速やかに防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)

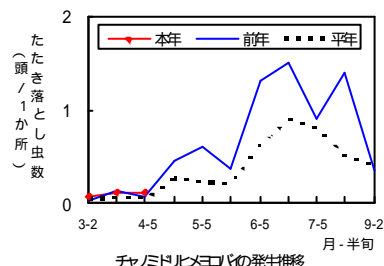
たたき落とし虫数0.11頭(平年 0.05頭、前年 0.07頭)

発生ほ場率 38.9%(前年 16.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

一番茶摘採後、もしくは二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



### 3 チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった(+)。

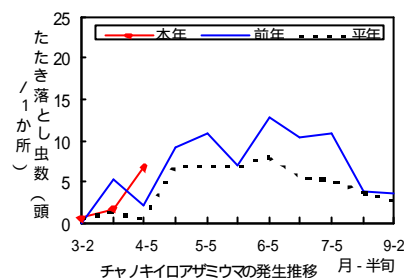
たたき落とし虫数6.78頭(平年 0.70頭、前年 1.98頭)

発生ほ場率 55.6%(前年 84.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

一番茶摘採後、もしくは二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



### 【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防のため、擬葉展開後直ちに薬剤散布を行う。</li> <li>・ ハウスの妻面を開放し、湿度の低下を図る。</li> </ul>
アザミウマ類	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 葉や若茎の穂先に発生するので、早期発見に努め、発生初期から防除する。</li> <li>・ ハウス内外の除草を徹底する。</li> </ul>

## 農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され、基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルをよく確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう環境への配慮を十分行って下さい。

### 1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数など、ラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

### 2 水田では止水期間(1週間程度)を厳守

水田において農薬を使用するときは、止水期間を1週間程度とし、落水・かけ流しをしない。

### 3 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 4 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)